

大学院教育支援機構（DoGS）海外渡航助成金 報告書

Outcome report

計画名 Plan	アメリカ地球物理学連合 2023 年秋季大会の現地参加と研究発表
氏名 Name	太田 義将
研究科・専攻・学年 Graduate school/Division/Year level	理学研究科・地球惑星科学専攻・博士後期課程 2 年
渡航国 Country	アメリカ合衆国
渡航日程 Travel schedule	2023 年 12 月 9 日 ~ 2023 年 12 月 18 日

- ページ数に制限はありません。No limits on the number of pages
- 写真や図なども組み込んでいただいて結構です。You can include pictures or illustrations.
- 各項目について具体的に記述してください。Please fill in each item specifically.
- 日本語または英語で記載ください。Please use Japanese or English.

渡航計画の概要 Outline of the travel plan

アメリカ地球物理学連合（AGU: American Geophysical Union）は世界最大の地球物理学の学会であり、地球惑星科学に関して最新知見を有した多くの研究者が所属している。2020 年以降は多くの学術大会がオンラインで開催されているが、質疑応答の限られた時間内に意見交換のようなカジュアルな議論や、同世代の若手研究者と交流を図ることは難しく、対面でのコミュニケーションが重要である。そこで報告者は 2023 年 12 月にアメリカ合衆国カリフォルニア州のサンフランシスコのモスコニー・センターで開催される本学会の秋季大会（AGU Fall Meeting 2023）において研究発表をおこなうことを計画した。所属分野における最大規模の学会に現地参加し、発表を通じ議論を尽くすことで博士研究を深化させる。また海外研究者との交流、最新知見の情報収集、そして英語でのコミュニケーション能力の向上を目的とした。

成果 Outcome

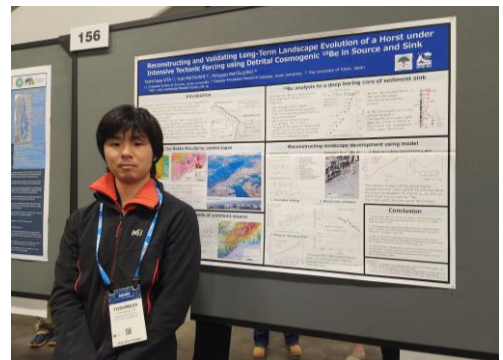
本学術大会において報告者はセッションセクション “Reconstructing Tectonics, Climate and Erosion of Mountain Belts” に参加し、 “Reconstructing and Validating Long-Term Landscape Evolution of a Horst under Intensive Tectonic Forcing using Detrital Cosmogenic ^{10}Be in Source and Sink” というタイトルで、12 月 15 日 午前（現地時間）のコアタイムにてポスター発表をおこなった。報告者のポスターブースには、アメリカ西部地域および中国の大学機関に所属する教員・博士研究員・大学院生らを中心とした研究者が多く来訪し、研究内容について説明と議論をおこなった。本研究の中心的データについて関心が示されたのと同時に、データの一般性や解像度、そしてモデルの計算について多方面から本質的なコメントを頂いた。また AGU では報告者の研究分野に近いセッションが数多く開かれており、会期中はポスターほか口頭でのセッションを聴講して回った。報告者の研究テーマと近いコンセプトや、今後の展開について柔軟かつ学際的な考えを有している各国研究者の発表を見聞することで、自身の研究の国際的な位置づけをより明確に理解することに繋がった。



会場エントランス



ポスターホール



報告者とポスターブース

今後の展望 Prospects for the future

本渡航を踏まえ、自身の研究テーマをさらに発展させるためには、より視座を高め国際的な研究を俯瞰することが不可欠であることを強く認識した。また将来的には、世界各国で活躍する研究者らと協同して研究を進めていく必要もあり、AGUのような国際学会への現地参加で得られた人脈は重要である。今後もこのような国際学会に積極的に参加する機会を伺いたいほか、自らの研究の展開によっては国外の研究機関に長期滞在することも選択肢として検討したい。短期的な目標としては、報告者の研究成果についてAGUの参加研究者らから好意的な反応が得られたので、今回の議論を踏まえて内容を洗練し、国際的な英文学術雑誌への投稿を目指す計画である。



AGU 開催会場（モスコビー・センター）

また本渡航では英語を用いたコミュニケーションの重要性を改めて認識すると同時に、報告者自身の英語運用能力の不十分な点についても具体性を帯びて痛感した。報告者のポスターブースに来訪した英語話者の多くが、報告者の英会話能力に合わせて質疑の言葉を選択していると感じられた。研究の本質は研究内容そのものではあるが、このようなコミュニケーション上の問題は、双方の理解の一致に困難を生じさせ、より踏み込んだ議論を妨げてしまう問題がある。国際学会という貴重な機会を十二分に生かし、報告者自身が国際的な研究者となるために、今後はより総合的な英語運用能力を高めることにも邁進したい。

最後に、昨今の社会情勢の変化に伴う物価の高騰と為替相場は、本渡航の計画段階から非常に頭を悩ませるものであった。サンフランシスコ市街で販売されている食料品や日用品の価格は実際に日本国内の倍以上であり、航空券に係る燃油特別付加運賃もコロナ禍以前の額を遥かに上回っていた。そのなかで渡航が現実となり、博士後期課程における国際学会での発表という計画を遂行できたことは、今回渡航に掛かる費用の助成金をご支援頂いたことが非常に大きい。大学院教育支援機構（DoGS）をはじめ渡航に際してご協力頂きました方々に心より御礼申し上げます。



会場周辺の風景（パウエルストリート）